

果実の肥大や成熟が、平年及び前年より遅れています。
着色の進み具合や減酸を確認し、収穫しましょう！

令和元年9月の気象

令和元年9月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第4半旬を除いて平年より高く推移した。月平均気温は24.4℃で、平年より1.6℃高く、前年より1.7℃高かった。

降水量は第2、第4半旬以外の半旬では平年より少なく、第1半旬は降雨がなかったが、第2半旬は台風15号の影響により173mmと多かった。月合計は322mmで平年の128%、昨年の77%であった。

日照時間は第3半旬を除き、平年より多かった。月合計は191時間で平年の132%、前年の166%であった。

表1 令和元年9月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	26.2	24.9	25.4	0	26	24	46	30	18
2	27.0	24.2	25.9	173	45	75	40	28	33
3	24.4	23.5	21.2	10	30	30	19	25	10
4	22.3	22.4	22.4	119	41	59	27	23	18
5	23.8	21.4	22.3	10	50	52	25	21	21
6	22.7	20.4	19.2	10	59	176	35	20	14
平均/計	24.4	22.8	22.7	322	251	416	191	145	115

2 果実及び樹の生育

9月30日における調査園の果実生育状況を表2に示した。横径は「日南1号」が6.6cm、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均で見るとそれぞれ5.4cm、5.9cm、5.8cmであった。「日南1号」は平年及び前年と同程度であった。「興津早生」は平年より8%、前年より13%小さかった。「大津4号」は平年より6%、前年より14%小さかった。「青島温州」は平年より6%、前年より11%小さかった。

縦径は、「日南1号」が5.1cm、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均で見るとそれぞれ4.4cm、4.4cm、4.6cmであった。「日南1号」は平年及び前年と同程度であった。「興津早生」は平年より8%、前年より12%小さかった。「大津4号」は平年より6%、前年より10%小さかった。「青島温州」は平年と同程度で、前年より6%小さかった。

果形指数は、「日南1号」が1.3、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均で見るとそれぞれ1.2、1.3、1.2であった。平年及び前年と同程度であった。

表2 果実の生育（令和元年9月30日）

品 種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	暖地園研	6.6	6.8	6.8	5.1	5.1	5.0	1.3	1.3	1.4
興津早生	三芳地区	5.5	5.9	6.2	4.5	4.8	5.1	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	5.1	5.8	5.8	4.2	4.7	4.5	1.2	1.2	1.3
	暖地園研	5.5	6.0	6.7	4.6	4.9	5.4	1.2	1.2	1.2
	平 均	5.4	5.9	6.2	4.4	4.8	5.0	1.2	1.2	1.2
大津4号	三芳地区	5.8	6.2	7.0	4.5	4.8	5.2	1.3	1.3	1.3
	千倉地区	5.7	6.4	6.6	4.4	4.6	4.6	1.3	1.4	1.4
	暖地園研	6.2	6.4	7.0	4.4	4.7	4.9	1.4	1.4	1.4
	平 均	5.9	6.3	6.9	4.4	4.7	4.9	1.3	1.4	1.4
青島温州	三芳地区	5.6	6.1	6.7	4.5	4.8	5.3	1.2	1.3	1.3
	千倉地区	5.7	6.1	6.0	4.6	4.7	4.4	1.2	1.3	1.4
	暖地園研	6.1	6.3	6.8	4.6	4.7	4.9	1.3	1.3	1.4
	平 均	5.8	6.2	6.5	4.6	4.7	4.9	1.2	1.3	1.4

各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、鳥害、落果、台風害により調査果実を変更した樹がある
果形指数は、横径/縦径

「日南1号」の果実品質

「日南1号」の果実品質を表3に示した。

着色程度は、平年及び前年より低く、着色の遅れがみられた。

糖度は、平年及び前年より低く、酸度は、平年及び前年より高かった。そのため、甘味比は平年及び前年を下回った。

果肉歩合は、平年及び前年を下回った。

表3 極早生温州「日南1号」の果実品質（令和元年10月1日）

調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
暖地園研	2.0	4.8	3.2	7.7	8.6	8.4	1.20	1.01	0.83	6.4	8.9	10.0	82.8	83.2	85.8

平年値は平成27~30年の平均値

甘味比=糖度/酸度

果肉歩合=果肉重/1果重×100

10月の栽培管理

(1) 浮皮症の軽減対策

収穫期に過湿条件であると浮皮症が発生しやすいので、防風垣を刈り込んで通風を良くし、排水対策を講じて園地の乾燥に努める。

(2) 樹上選果

本年は表年であるため、選果は念入りに行い良品出荷に努める。11月になっても、気温が高いと果実は肥大するので、収穫直前まで園地を見回り、商品性の劣る果実を摘果する。収穫、選果の労力を軽減するためにも有効となる。

(3) 早生温州の収穫

着色の良好な果実から順次収穫していく。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫直後の果実は果皮の水分が多いので出荷予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2~3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(4) 秋肥

早生温州では11月上旬、普通温州では11月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ10a当たり成分量で6、4、6kg追肥する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると低温のため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には収穫後直ちに液肥を散布する。

(5) 病害虫の防除

10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病、緑かび病の防除を行う。ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、収穫を間近に控えた品種では、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意する。

※極早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意をする。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>